

I 課題

1 「総合的な学習の時間を通して、どのような資質・能力を育成するのか」ということや、「総合的な学習の時間と各教科等との関連を明らかにする」ことに課題がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを明らかにし、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントを行う必要がある。

2 探究のプロセスの中でも「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取り組みに課題がある。探究のプロセスを十分理解し、探究のプロセスを通じた児童一人一人の資質・能力を向上させる必要がある。

II 目標と、その意味構造

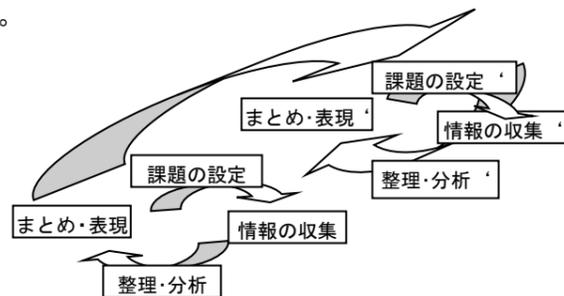
探究的な見方・考え方を働かせ*1、横断的・総合的な学習を行う*2を通して、**よりよく課題を解決し*3、自己の生き方を考えていく*4**ための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようになる。
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

*1 探究的な見方・考え方を働かせる：以下の①～④の営みのことである。

- 課題の設定**：日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を発見する。
- 情報の収集**：課題を解決するために、情報を収集する。
- 整理・分析**：収集した情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを互いに出し合ったりしながら課題の解決に取り組む。
- まとめ・表現**：③で明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた、新たな課題を見つけ、設定する。

※事物・事象の本質を探ってみ極めようとする知的営みのことである。



- 日常生活や社会に目を向け、児童が自ら課題を設定する。
- 探究の過程を経由する。①課題の設定⇒②情報の収集⇒③整理・分析⇒④まとめ・表現
- 自らの考えや課題が新たに更新され、探求の過程が繰り返される。

*2 「横断的・総合的な学習を行う」：次のような探究課題等を探究することである。

課題	探究課題の例
横断的・総合的な課題	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観（国際理解）
	情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化（情報）
現代的な諸課題	身近な自然環境とそこで起きている環境問題（環境）
	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々（福祉）
	毎日の健康な生活とストレスのある社会（健康）
	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題（資源エネルギー）
	安心・安全な町づくりへの地域の取り組みと支援する人々（安全）
	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者（食）
	科学技術の進歩と私たちの暮らしの変化（科学技術）
地域や学校の特色に応じた課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々と組織（町づくり）
	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（伝統文化）
	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会（地域経済）
	防災のための安全な町づくりとその取組（防災）
児童の興味・関心に基づく課題	実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア）
	ものづくりの面白さやクフと生活の発展（ものづくり）
	生命現象の神秘や不思議さと、その素晴らしさ（生命）

*3 「よりよく課題を解決する」：解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題などについても、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目前の具体的な課題を粘り強く対処し解決しようとするのである。

身近な社会や人々、自然に直接関わる学習活動の中で、課題を解決する力を育てていくことが必要になる。「よりよく課題を解決する資質・能力」は、試行錯誤しながらも新しい未知の課題に対応することが求められる時代において、欠かすことのできない資質・能力である。

*4 「自己の生き方を考える」：①人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。②自分にとって学ぶことの意味や価値を考えていくことである。③「①、②」を生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えること。

IV 「探究的な学習」における指導のポイント

1 課題の設定

・体験活動等を通して課題を設定し、課題意識をもつ。
 「より複雑な問題状況、確かな見通し、仮説」■問題状況の中から、課題を発見し、設定する。■解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる。

- 人や社会、自然に直接関わる体験的活動において、学習対象との関わり方や出会わせ方などを工夫する。
- 「不思議だな!」「どうしてかな?」という疑問や、「びっくりした!」「知らなかった!」という驚きなど、現実の状況と理想の姿との対比などから課題を発見させる。Ex. 「なぜ川がこんなにきれい(よごれていない)なんだろう?」

2 情報の収集

・必要な情報を取り出したり、収集したりする。
 「より効率的・効果的な手段、多様な方法からの選択」■情報収集の手段を選択する。■必要な情報を収集し蓄積する。

- 課題の解決に必要な情報を、観察・実験・見学・調査・探索・追体験によって収集する。
- 収集した場所や相手、期日などを明示して、ポートフォリオやファイルボックス、コンピュータのフォルダなどに蓄積していく。
- 体験活動では、体験で獲得した情報をレポートなどで言語化して蓄積していく。

3 整理・分析

・収集した情報を整理・分析して思考する。
 「より深い分析、確かな根拠付け」■問題状況における事実や関係を把握し理解する。■多様な情報にある特徴を見付ける。■事象を比較したり、関連付けたりして課題解決に向けて考える。

- 自分が見たこと、人から聞いたこと、図書やインターネット等調べたことなど、だれかの個人的意見、他からの転用なのか、情報を吟味する。
- どのような方法で情報の整理(グラフ化、カード化、マップ等)や分析(比較・分類・序列化・類推、原因や結果に茶番して考える)を行うのか、決定する。

4 まとめ・表現

・情報の整理・分析を行った後、それを他者に伝え、自分自身の考えとしてまとめる。
 「より論理的で効果的な表現・内省の深まり」■相手や目的に応じて分かりやすくまとめ表現する。■学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。

- 相手・目的意識を明確にして表現する。
- まとめ・表現することが、情報を再構成し、考えを深め、新たな課題に気づきをよぶ。
- 伝えるための具体的な方法を身に付けるとともに、目的に応じて選択して使えるようになる。